

# 北九州高速鉄道株式会社

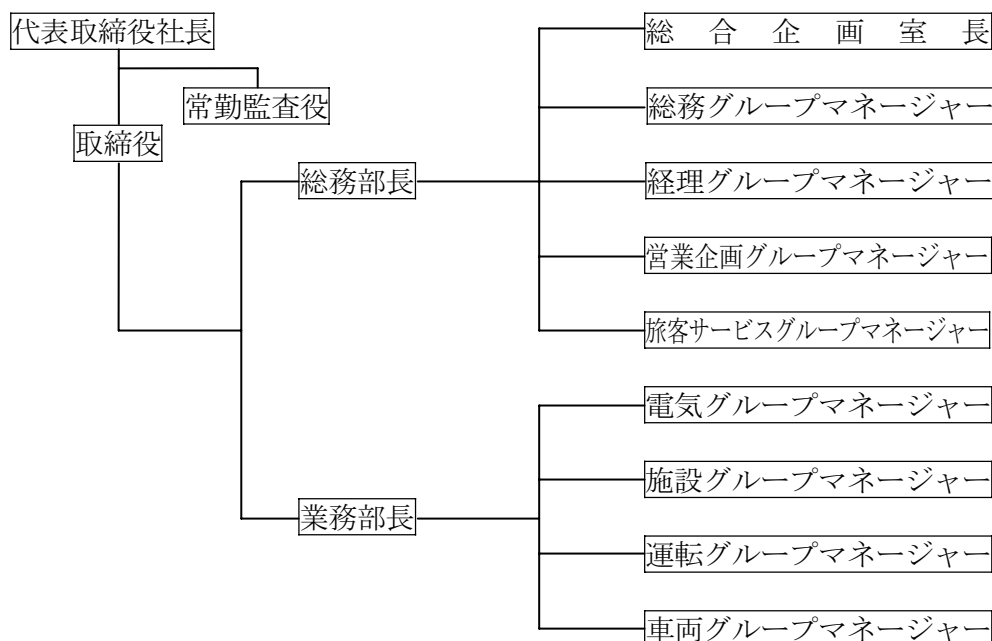
北九州高速鉄道株式会社は、鉄道の使命である輸送の安全性・運行の定時性の確保に努めています。

また、利便性や旅客サービスの向上に努め、乗客の増加対策を図るとともに、経営の効率化、経費の節減等経営基盤の安定に努めています。

〔設 立〕	昭和51年7月31日
〔所 在 地〕	北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号 Tel 093-961-0101
〔目 的〕	市街地の拡大及びモータリゼーションの激化による都市交通問題に対応し、健全な市街地整備を促進するため。
〔事 業〕	軌道法による一般運輸業、広告宣伝業等
〔資 本 金〕	3,000,000千円 ＜うち本市出資額 3,000,000千円（100.0%）＞
〔決 算 期〕	毎年3月31日
〔主 務 官 庁〕	国土交通省
〔本 市 所 管〕	建築都市局計画部都市交通政策課（Tel 093-582-2518）

## 1 法人の組織

### (1) 機構図



(2) 役職員数

	人数				平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	8人	3人	2人	3人	61歳
職員	135人	0人	0人	135人	48歳

(3) 役員名

- [取締役会長] 木原 文吾 (株式会社井筒屋特別顧問)  
[代表取締役社長] 志賀 幸弘 (北九州市副市長)  
[取締役] 石原 精一郎 (北九州高速鉄道株式会社総務部長)  
[ " ] 北島 粹 (北九州市建築都市局理事)  
[ " ] 石丸 美奈子 (財団法人北九州市芸術文化振興財団理事)  
[常勤監査役] 西村 正幸 (北九州市民共済生活協同組合専務理事)  
[監査役] 伊藤 公一 (北九州市建築都市局総務企画部長)  
[ " ] 赤司 真人 (株式会社福岡銀行取締役常務執行役員北九州本部長)

2 事業の概要等

<北九州モノレールのあらまし>

(1) 営業キロ 8.8km 全線複線 (建設キロ 9.1km)

(2) 駅数 13 駅 (駅間平均距離 733m)

(3) 建設費

インフラ部 332 億円

インフラ外部 349 億円

計 681 億円

(延伸区間)

インフラ部 105 億円

インフラ外部 30 億円

計 135 億円

(4) 運転時分 19 分

(5) 運転本数 平日 105 往復 土日祝 101 往復

(6) 運転時隔 朝ラッシュ時 6 分 昼間 10 分

(7) 運転速度 最高 65.0km/h 平均 33.9km/h  
表定 27.4km/h

(8) 車両数 40 両 (4 両×10 編成) 全電動車

(9) 車両規格 長さ 1 編成 60.2m 高さ 4.92m 幅 2.98m

(10) タイヤ 1 両当り 2 台車、1 台車につき 10 本 (走行輪 4 本、案内輪 4 本、安定輪 2 本) ゴムタイヤ (チューブレス)

(11) 主電動機 75KW (全電動車、1 編成 1,200KW)

- (12) 定員 392人 (うち座席数 145人)
- (13) 運転方式 ワンマン運転 ATO
- (14) 保安設備 連続列車検知式自動列車制御方式 (ATC/TD)
- (15) 通信設備 列車無線及び集中ホーム監視装置
- (16) CTC 自律分散処理方式 (CPU) による制御
- (17) 桁本数 本線 PC 565本 鋼 45連
- (18) 桁規格 標準桁 (PC桁)  
サイズ L=20m H=1.5m W=0.85m
- (19) 支柱数 RC 252基 鋼 125基
- (20) 桁高 道路面上 (最大) 19m (最小) 7.9m (標準) 12.5m
- (21) 変電設備 DC 1,500V 3カ所 (6,000KW)

### 3 主な事業実績 (平成19年度)

開業から24年目を迎えた当期は、お客さまの安全、正確、快適、便利の確保に努め、順調な運行を続け、開業からの輸送人員は、2億5,575万人に達しました。

全国的に公共交通機関の利用者が減少する中で、1駅100円モノレール (100円きっぷ) や格安なシルバーパスの導入により、当期の輸送人員は、1,125万人 (前期比17万人、1.6%増) で、前期に引き続き、増客となりました。

運輸収入は、100円きっぷやシルバーパスの導入により、平均単価が下がったこと等で、19億6,820万円 (前期比1,508万円、0.8%減) となり、一方、運輸雑収は、高額な大口の電照広告やラッピング広告等の獲得により、2億70万円 (前期比3,767万円、23.1%増) となり、営業収益は、21億6,890万円 (前期比2,259万円、1.1%増) となりました。

一方、営業費は、前期に実施した工作車の大規模な修繕がなかったことや経費の節減等により、18億2,604万円 (前期比6,018万円、3.2%減) となり、当期の営業損益は、3億4,286万円の利益 (前期比8,278万円、31.8%増) となりました。

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、4億4,266万円の利益 (前期比8,188万円、22.7%増) となり、特別損益・法人税等を加えた当期純損益は、2億4,472万円の利益 (前期比7,616万円、45.2%増) となり、平成10年度以降10期連続で単年度黒字を計上しました。

設備更新については、車両改造更新 (1編成) を完成させました。

4 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成18年度	平成19年度
出 資 金 の 状 況	3,000,000	3,000,000
補 助 金	0	0
委 託 料	371,203	358,895
貸 付 金 残 高	1,300,000	1,300,000

5 資産・収支の状況（平成19年度決算）

(1) 貸借対照表

平成20年3月31日現在（単位：円）

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	4,733,005,415
<b>流動資産</b>	<b>2,047,975,026</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,590,045,422</b>
現金及び預金	1,900,792,644	未払金	1,345,376,011
未収運賃	15,101,440	未払費用	7,024,189
未収金	12,961,662	未払法人税等	95,231,000
未収収益	2,207,582	未払消費税等	12,114,029
商 品	3,326,567	預 り 金	12,069,008
貯 蔵 品	113,170,398	前受運賃	54,912,570
その他の流動資産	414,733	前受収益	10,785,547
		賞与引当金	52,533,068
<b>固定資産</b>	<b>15,486,108,397</b>	<b>固定負債</b>	<b>3,142,959,993</b>
軌道事業固定資産	14,437,882,557	長期借入金	1,300,000,000
建設仮勘定	748,188,630	退職給付引当金	248,802,500
投資その他の資産	300,352,210	預 り 敷 金	600,000
貸倒引当金	▲315,000	預 り 保 証 金	2,550,000
		再評価に係る繰延税金負債	1,591,007,493
		(純資産の部)	12,801,078,008
		資 本 金	3,000,000,000
		資 本 剰 余 金	6,871,521,775
		資 本 準 備 金	6,871,521,775
		利 益 剰 余 金	580,475,828
		繰越利益剰余金	580,475,828
		土地再評価差額金	2,349,080,405
<b>資産合計</b>	<b>17,534,083,423</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>17,534,083,423</b>

## (2) 損益計算書

自 平成 19 年 4 月 1 日  
至 平成 20 年 3 月 31 日 (単位：円)

科 目	金 額	
<b>経常損益の部</b>		
<b>(営業損益の部)</b>		
軌道事業		
営業収益	2,168,905,831	
営業費	1,826,045,368	
営業利益		342,860,463
<b>軌道事業営業利益</b>		<b>342,860,463</b>
<b>(営業外損益の部)</b>		
営業外収益		
受取利息	7,728,964	
雑収入	92,088,435	
<b>営業外費用</b>		
雑支出	17,473	17,473
<b>経常利益</b>		<b>442,660,389</b>
<b>特別損益の部</b>		
特別損失		
固定資産除却損	59,679,663	59,679,663
<b>税引前当期純利益</b>		<b>382,980,726</b>
法人税、住民税及び事業税	138,252,012	138,252,012
<b>当期純利益</b>		<b>244,728,714</b>